

2019年10月25日

日興アセットマネジメント株式会社

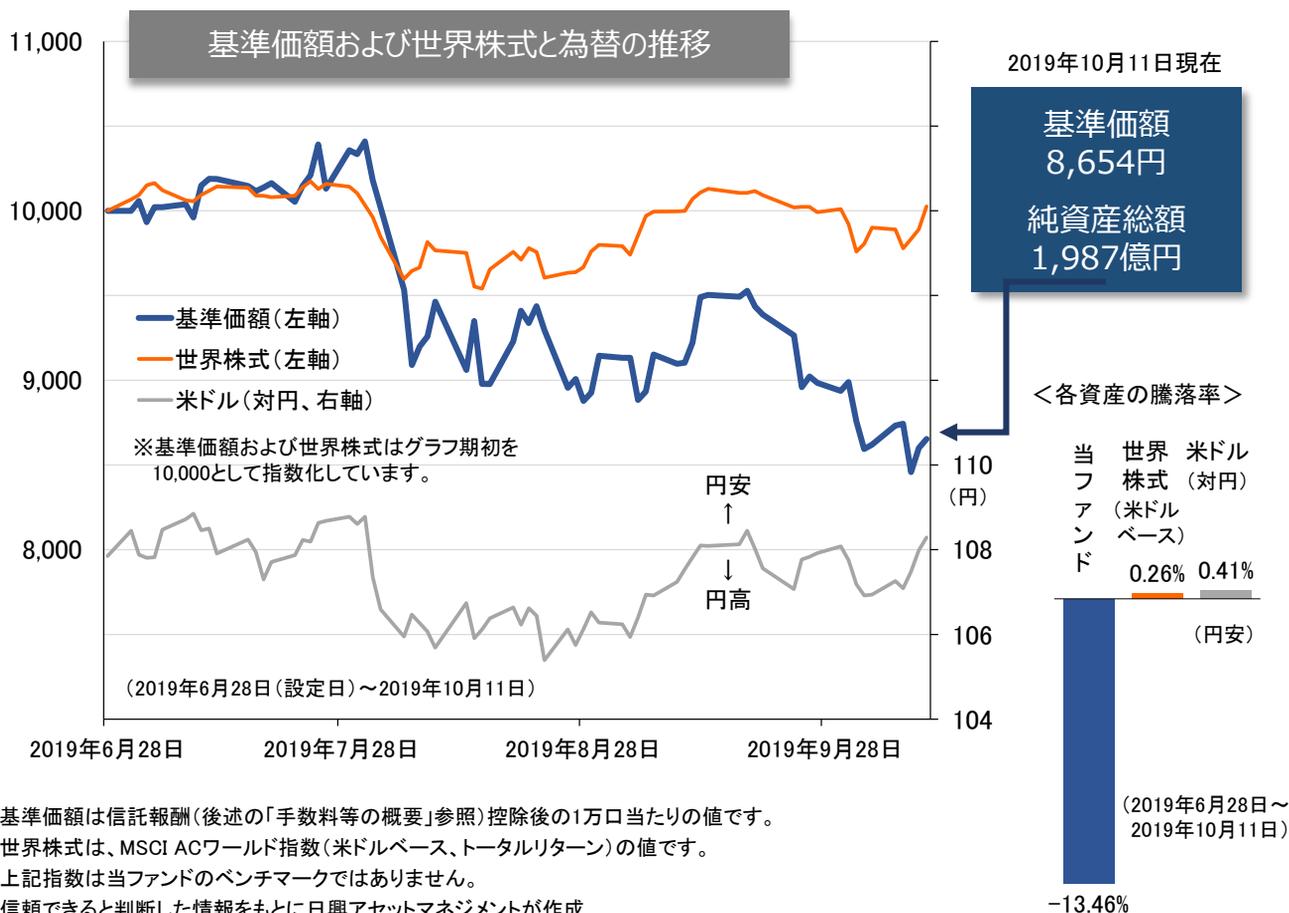
(愛称) **イノベータータイプ・フューチャー**

設定来の運用状況とARK社の視点

当ファンドは2019年6月28日に設定され、主にルクセンブルグ籍円建外国投資法人に投資を行なっています。

運用開始以降、当ファンドの実質的な保有銘柄の4-6月期決算が発表されると、一部の銘柄の決算内容などが市場で嫌気され、株価が大きく動く展開となりました。また、米国において薬価引き下げ問題が取り沙汰されたこともあり、当ファンドの設定来のパフォーマンスは▲13.46%(2019年10月11日現在)となりました。

本資料では、足元の状況やパフォーマンス変動の要因、今後の見通しなどについて、当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、アーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(ARK社)からのコメントなどをもとに、次ページ以降、Q&A形式でお伝えします。



- 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- 世界株式は、MSCI ACワールド指数(米ドルベース、トータルリターン)の値です。
- 上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
- 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



Q1

基準価額が設定来で約13%下落*1した理由は何ですか？



設定以降、基準価額は1,346円(13.46%)下落*1しましたが、その主な理由は保有株式が下落したことにあります。

保有株式が下落した理由としては、主に、次の2点が挙げられます。



*1 2019年6月28日(設定日)～2019年10月11日

※ 基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

①米中貿易摩擦への懸念が市場の重しになりました。

本年8月、トランプ米大統領が対中制裁関税の第4弾を9月1日に発動すると突然発表したことから、米中貿易摩擦の激化懸念が強まりました。また、米国で国債の長短金利(10年債と2年債)が逆転(通常は、長期金利>短期金利)したことから、同国の景気後退懸念が表面化し、株式市場は下落に転じました。

当ファンドが多く保有していた中小型株式は、市場で懸念が高まるとき、その動きを強く受ける傾向があることから、当ファンドは、市場を上回る大きな下げとなりました。

②薬価引き下げへの懸念からヘルスケア関連株は軟調な推移が続きました。

8月下旬以降は、米中の歩み寄りや、欧米での金融緩和の動きなどから市場は上昇基調となりました。しかしながら、ポートフォリオの3分の1程度を構成していたヘルスケア関連株が軟調となったため、当ファンドは戻りの鈍い展開となりました。

ヘルスケア関連株が軟調となった理由は、「米国での薬価引き下げ問題」が取り沙汰されたことです。これにより、業績悪化が懸念される展開となりました。

基準価額騰落の要因分解

-1,235円



株式要因

-88円

為替など要因

-23円

その他の要因

(分析期間：2019年6月28日～2019年10月11日)

※当ファンドの基準価額は基準価額算出日の前営業日の投資先投資信託のデータを反映して算出しています。一方で要因分解は投資先投資信託の月末営業日の公表されたデータを基に計算しており、基準日が異なります。この差異による要因は「為替など」に入るためこの部分の数値が比較的大きな数値になることがあります。

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※要因分解は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。



Q2

基準価額の騰落に大きな影響を与えた銘柄を教えてください

基準価額の騰落に、プラスの影響を与えた主な銘柄は、
テスラ(電気自動車メーカー)、ツイッター(SNS)などです。

一方で、マイナスの影響を与えた主な銘柄は、
ストラタシス(3Dプリンタ・メーカー)、インテリア・セラピューティクス(ゲノム編集)、
インビテ(遺伝子解析)などとなっています。

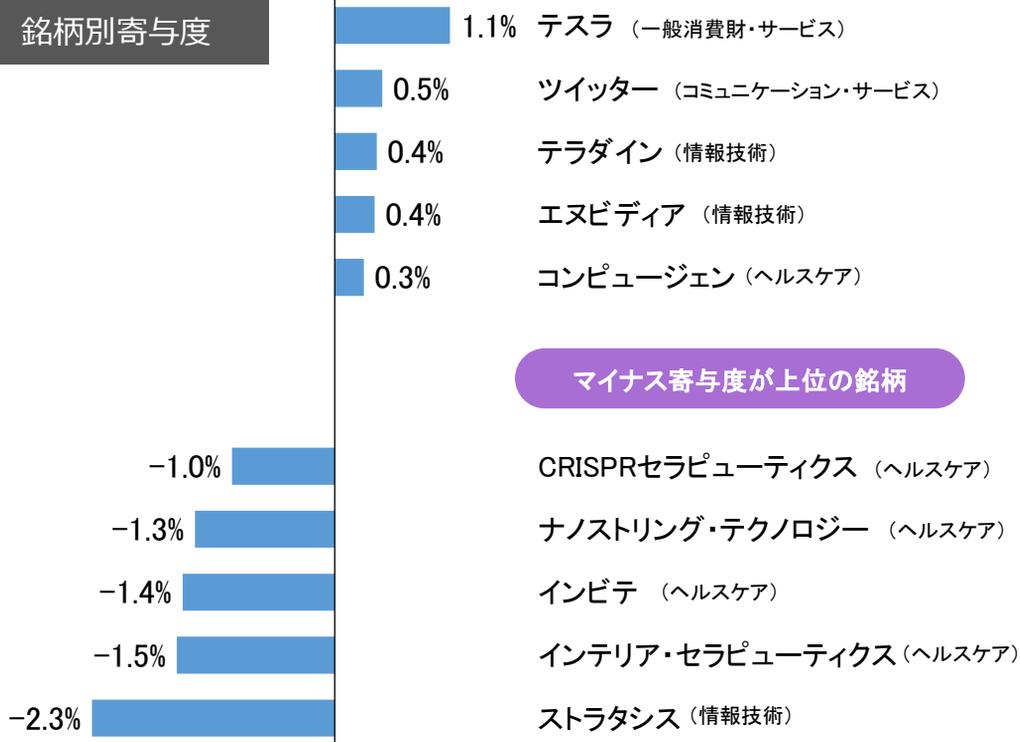
(下の「銘柄別寄与度」グラフ参照)

A



プラス寄与度が上位の銘柄

銘柄別寄与度



マイナス寄与度が上位の銘柄

(分析期間:2019年6月28日~2019年10月11日)

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。そのため、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※寄与度は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

寄与度の大きかった銘柄① – テスラ

プラス寄与

何をしている会社ですか？

組み入れている理由は何ですか？

【企業概要】 世界有数のEV(電気自動車)メーカーです。

【組入理由】

ARK社では、テスラは、電気自動車のメーカーとしての評価に加え、車両に自動運転が可能になるハードウェアを搭載し、将来の自動運転実現に備えていることに注目しています。

同社は、販売した自動運転車を自動運転タクシーとして保有者とシェアするサービスを計画しています。これにより、車体の販売時に収益を計上する従来型メーカーと異なり、販売後に継続的に収益を計上できる仕組みを持つことで、高い成長が可能であると考えています。



足元の状況と、この先の見方を教えてください

【足元の状況】

4-6月期の業績は、最終利益は赤字で市場予想に届きませんでした。しかしながら、前期に比べ赤字幅は縮小し、売上高も前年同期比で58%強の増加となるなど好調であったことから、株価は底堅く推移しました。

【今後の見通し】

自動運転車のシェアサービスでは、車両保有者の空き時間に保有車両を自動運転タクシーとして活用し、その売上を保有者と同社で分け合うことを計画しています。

将来、自動運転タクシーが実現すれば同社の継続的な収益が期待され、ARK社では有望視しています。



※ グラフの着色部分は当ファンドの運用期間を示しています。
 ※ なお、当該期間が投資銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、設定以降、10月11日までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、9月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

寄与度の大きかった銘柄② – ストラタシス

マイナス寄与

何をしている会社ですか？

組み入れている理由は何ですか？



【企業概要】 イスラエルと米国に拠点を置く3Dプリンタ・メーカーです。

【組入理由】

見本品や模型などを製作する3Dプリンタの初期のブームは下火となりましたが、3Dプリンティングの特徴である、作業時間、材料の無駄、コストを劇的に削減できる点や、従来の製造方法では不可能だった新しい部品の製造を可能にする点に注目しています。

ストラタシス社の3Dプリンタは、燃料コスト削減のために、軽量化と省スペース化が求められる航空・宇宙産業向けであり、3Dプリンタが本格導入される中で、需要の拡大が見込まれます。



足元の状況と、この先の見方を教えてください

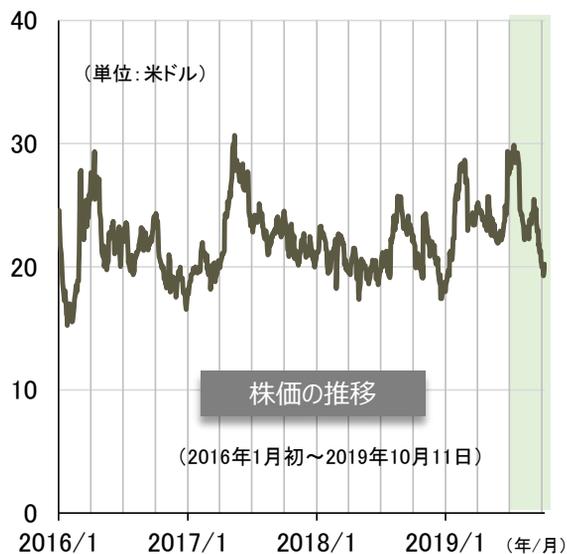
【足元の状況】

本年7月末に発表した4-6月期の決算では、製品事業、サービス事業ともに、売上が市場見通しを下回ったことなどから、翌8月1日以降、株価は大きく下落しました。

【今後の見通し】

3Dプリンティングは、従来の製造方法では不可能だった根本的に新しい部品の製造を可能にする技術であり、本格的な普及が期待されます。

この夏、米国空軍は交換用部品の製作において、同社の3Dプリンタを採用(認定)しました。こうした航空・宇宙産業での採用増加の動きが、今後、本格化する中で、同社の業績拡大が期待され、ARK社でも注視しています。



※ グラフの着色部分は当ファンドの運用期間を示しています。
※ なお、当該期間が投資銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、設定以降、10月11日までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、9月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

寄与度の大きかった銘柄③ – インテリア・セラピューティクス

マイナス寄与

何をしている会社ですか？

組み入れている理由は何ですか？



【企業概要】

現在の主流となっているゲノム編集技術「CRISPR/Cas9（クリスパー/キャスナイン）」の知的財産所有権を持つ3社のうちの1社です。

【組入理由】

画期的なゲノム編集技術とされる「CRISPR/Cas9」のライセンスを提携先の製薬会社に提供し、新薬などの開発の進捗に合わせて「マイルストーン支払い」という報酬を獲得している点に注目しています。また、売上高に対して一桁台半ばと推測される特許利用料率などの収入も見込まれ、同技術の利用拡大に伴ない、今後、同社では高い成長が見込まれます。



足元の状況と、この先の見方を教えてください

【足元の状況】

本年8月下旬に、3億米ドルを上限とする証券新規発行枠の登録を行ないましたが、この金額が同社の現在の時価総額の40%程度に相当する大きさであったことから、既存株主の利益の希薄化懸念が強まり、株価は大きく下落しました。

また、米国における薬価引き下げに対する議論の再燃もあり、株価は下落基調となりました。

【今後の見通し】

提携先のノバルティスなどが開発した「CAR-T（キメラ抗原受容体T細胞）療法」という画期的な免疫療法が、FDA（米国食品医薬品局）から認可されており、今後の更なる成長が期待されます。



※ グラフの着色部分は当ファンドの運用期間を示しています。
 ※ なお、当該期間が投資銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、設定以降、10月11日までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、9月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

寄与度の大きかった銘柄④ – インビテ マイナス寄与

何をしている会社ですか？

組み入れている理由は何ですか？



【企業概要】

遺伝子検査サービスを提供しています。特に血液などを調べることで患者の病気を特定する分子診断サービスの中心的な企業のうちの1社です。

【組入理由】

ARK社は、同社が手掛ける、質の高い遺伝子検査サービスに注目しています。

現在、疾患(病気)の特定のために行なわれる数多くの検査を、血液を調べるだけで可能とする分子診断サービスは、今後の医療の在り方を変え得る技術であり、同社は大きな成長を遂げるとみています。



足元の状況と、この先の見方を教えてください

【足元の状況】

本年9月上旬に、社債償還資金やインフラ投資、国際事業拡大などに充当する為に、転換社債の発行を発表しましたが、市場では株式価値の希薄化が懸念されました。

また、米国における薬価引き下げに対する議論の再燃もあり、株価は下落基調となりました。

【今後の見通し】

同社が示した、今後の遺伝子検査数の展望について、市場には懐疑的な見方がありますが、保有する遺伝子データの量や、製薬会社との戦略的提携などから、ARK社では、同社の想定に無理はないと考えており、今後、大きな成長を続けるとみています。



※ グラフの着色部分は当ファンドの運用期間を示しています。
 ※ なお、当該期間が投資銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、設定以降、10月11日までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、9月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

Q3

今回の基準価額の下落をARK社はどう考えていますか？



外部環境の悪化に加え、企業の収益動向や増資(希薄化)への懸念など、短期的な要因による低迷であり、当該企業の中長期的な成長見通しに変化はないと考えています。



市場で不確実性が高まる時でも、イノベーションは進化を続けています。

景気低迷や、地政学リスクの高まりなどにより、時折、株式市場は調整局面を迎えます。しかし、そうした時でも、**絶えずイノベーションは進化しており、その恩恵を受けられる革新的な企業の価値は拡大を続けている**と考えています。

実際、以下に挙げるように、イノベーションの進化を裏付けるような報道がみられます。

ゲノム解析

- 遺伝子編集技術「CRISPR/Cas9」を利用してゲノム編集を行なった食品の流通が2019年10月に、日本で解禁されました。

ゲノム編集は従来の品種改良と変わらな
いと認定され、特定の栄養価を高めたり、
収穫量の増加などが期待されます。

- がん免疫療法的一种である「CAR-T(キメラ抗原受容体T細胞)療法」が全米で医療保険給付の対象となりました。

将来、遺伝子編集に基づき商品化された
医薬品が保険適用となると期待されます。

フィンテック

- 米国では、デジタル・ウォレット(スマートフォンなどを用いたキャッシュレス決済の口座)が既存の銀行を猛追しています。

2018年時点では大手金融機関の口座数と
遜色のない規模に拡大し、当たり前
の存在となっています。

- フィリピンでは、出稼ぎ先からの国際送金サービスにおいて、手数料の安さや利便性の良さから、ブロックチェーンを活用したサービスが始まりつつあります。

自動運転

- 中国の一部の都市は、自動運転車両を使用して乗客を乗せる運行サービスの免許を交付しました。

3Dプリンタ

- 大手航空機メーカーでは、3Dプリンタ導入により材料消費量の約70%削減に成功しました。

- ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

ARK社の視点



Catherine D. Wood

(創業者、CEO / CIO (最高投資責任者))

イノベーションこそが経済成長のカギ

当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、ARK社の視点をお伝えします

はじめに ～経済成長の鈍化懸念があるなかでもイノベーションは進化しています。

米中を中心とした各国間の貿易面・政治面での対立や、政策面の不透明感、また多くの国での景気減速への不安感から、投資家は市場でリスク回避姿勢を取っています。

しかし、私たちは自身が定義する5つのイノベーション・プラットフォーム、すなわち、他のイノベーションとの融合やイノベーションの創出を促す共通基盤と定義する、「ゲノム解析」「ロボティクス」「エネルギー貯蔵(バッテリー技術)」「人工知能」および「ブロックチェーン」は進化を続けていると確信しています。

過去のイノベーション・プラットフォームである「電気」の発明が、エネルギーの発生、伝達、利用のコストを一気に引き下げたように、これら5つのプラットフォームはコスト低下と生産性の急上昇、需要増をもたらし、地域や業種の垣根を越えて数多くの技術革新の礎になるとARKでは考えています。



上記はイメージです。

イノベーション・プラットフォームの現状①

ロボティクス

エネルギー貯蔵

ロボティクスは工場などで利用される高価な機械から、様々な産業に安価で導入可能な汎用性の高いコボットへと進化しています。そしてコボットを含め、EV(電気自動車)からスマートフォンに至るまで、多くのデバイス(機器)の動力源としてリチウムイオンバッテリーが活用されています。このリチウムイオンバッテリーは、世界初の大衆向けEVであるテスラ社のモデル3の大ヒットにより、累積生産量が急増し値下がりが進みました。長らく高止まりしていたバッテリーコストが低下したことで、新たなイノベーションが生まれる可能性が出てきました。

(次ページに続く)

- ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

ARK社の視点

(前ページより続く)



Catherine D. Wood

(創業者、CEO / CIO (最高投資責任者))

イノベーション・プラットフォームの現状②

ゲノム解析コストは過去15年間で100万分の1以下に低下しています。昨今、米国では薬価引き下げ問題が取り沙汰されていますが、ゲノム解析技術を用いた診断手法は、数十種類の検査が必要な現在の診断を血液検査で代替可能とするものであり、医療費(診断コスト)の大幅抑制につながるでしょう。さらに、ゲノム編集技術は、長期にわたり、高額で効果が不十分な「対処療法(症状に対する治療)」しかできなかった疾患の一部において、「治癒」することが可能になると期待されており、これも医療費の抑制につながると考えています。

ブロックチェーン技術は、あらゆるお金と契約の価値がデジタル上で守られ、所有権を明確にすることが可能な技術です。ブロックチェーンの進展により、既存の金融業界はシステムや事業の再構築を余儀なくされていますが、この技術は他の産業にも広がる(既にゲームや美術品の世界で一部導入され始めている)ことにより、近い将来、巨大な市場につながる可能性があります。

ゲノム
解析ブロック
チェーン

およそ150年ぶりに、複数のイノベーション・プラットフォームが同時展開する時を迎えています。

150年前

内燃
機関

電話

電気

現在

ゲノム
解析ロボ
ティクスエネルギー
貯蔵人工
知能ブロック
チェーン

これらイノベーション・プラットフォームはコストの低下・生産性の急上昇という特性を持つため、低インフレ

環境下における高成長をもたらす傾向にあります。これほどまでに複数のイノベーションが同時に発展するのは19世紀終盤以降で初めての事です。およそ150年前に世界の在り方を変えたのは、内燃機関、電話、電気という3つのイノベーション・プラットフォームの同時展開でした。

その後1929年までの50年間は、成長率および生産性が高かった一方でインフレ率は低く抑えられており、「デフレを伴う景気拡大」がもたらされ、イールドカーブは逆転しました。

対照的に、世界大恐慌から第二次世界大戦にかけての時期はイノベーションが停滞し、結果として1970年代の世界的な景気減速と高いインフレ率につながったものと思われます。

(次ページに続く)

- ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

ARK社の視点

(前ページより続く)

■ 様々なイノベーションが世の中に存在するなかで、なぜARKが着目しているイノベーションは過小評価されていると考えられるのでしょうか？



Catherine D. Wood

(創業者、CEO / CIO (最高投資責任者))

一つの原因として、イノベーションが変える生活や新しい世界を想像し、その影響や規模を**アナリストや専門家が想定できていない**ことが挙げられます。

私たちの多くが、携帯電話がなかったころの生活を想像できないように、初めて携帯電話を見たとき、携帯電話が何をもちたらずか想像するのはかなり難しかったと思われま。このように、イノベーションは、既に存在するものや、すでに明らかなものをベースに評価されることが多く、**想像力の欠如**による見過ごしや理解不足は、イノベーション評価の妨げにほかならないと考えられます。

- 自動運転技術 低いコストで人やモノの移動が可能……………>
- 遺伝子解析 血液検査でがん発見、効果的な治療……………>
- ゲノム編集 高栄養価、長期保存、病害耐性を持つ作物……>

どんな世界が
生まれるのか？

一時的な株価の値下がり、イノベーション投資において大きなチャンスとなり得ます

革新的なイノベーション・プラットフォームへの投資機会を考えるうえで大切なことは、**革新的な企業は市場環境が厳しい時こそ、より多くのシェアを獲得する傾向にある**ということを知っておくことです。

市場調整局面においては、**革新的な企業の株価は不当に下落することがあります**。それは、投資家が安全を求めて、**業容や業績がはっきりとした企業を保有し、革新的な企業を手放す**ような投資行動をとるからです。

しかし、こうした**感情的なリアクションが終われば、「正しいものが勝利する」**ことになるというのがARKの見解です。ARKのポートフォリオの中の銘柄はそうした企業群であると信じています。ボラティリティ(市場の変動性)が高まる局面こそ、私たちは銘柄に対する確信度を重視するのです。

ARKは、この先、**歴史上に類を見ない技術的な転換期が訪れる**との確信を強めています。当社は、これほど短期間でイノベーションを実現した今の時代を、**後世の人々は驚きをもって振り返る**と考えています。市場を混乱させたり、破壊したり、騒がせたりしながら、進展を続けるこれからの変化は、**過去のどの変化よりも大きなもの**になるかもしれません。

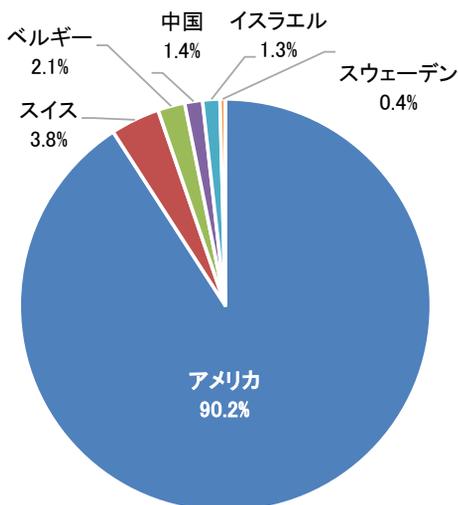
今後も「グローバル・プロスペクティブ・ファンド」をご愛顧くださいますよう、よろしくお願ひします。

- ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

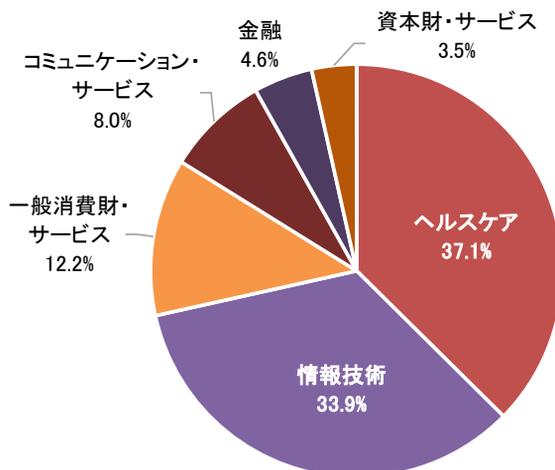
ポートフォリオの状況

2019年9月末現在

国・地域別組入比率



業種別組入比率



※ 端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

組入上位10銘柄

(銘柄数40銘柄)

規模別構成比率

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	Tesla Inc テスラ	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	9.9%
2	Square, Inc. Class A スクエア	米ドル	アメリカ	情報技術	7.5%
3	illumina, Inc. イルミナ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	7.3%
4	Stratasys Ltd. ストラタシス	米ドル	アメリカ	情報技術	6.3%
5	Invitae Corp. インビテ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	5.4%
6	Editas Medicine, Inc. エディタス・メディシン	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.9%
7	CRISPR Therapeutics AG CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	ヘルスケア	3.8%
8	NanoString Technologies, Inc. ナノストリング・テクノロジーズ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.6%
9	Intellia Therapeutics, Inc. インテリア・セラピューティクス	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.6%
10	2U, Inc. トゥーユー	米ドル	アメリカ	情報技術	3.3%

時価総額	比率
超大型株 (500億米ドル以上)	6.3%
大型株 (100億米ドル以上 500億米ドル未満)	36.6%
中型株 (20億米ドル以上 100億米ドル未満)	16.2%
小型株 (20億米ドル未満)	40.2%

※ 上記は、日興AMルクセンブルグ・エス・エイより提供された「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA 円建投資証券」の情報です。

※ 各種比率は当円建投資証券の純資産総額比です。

※ 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドの特色

1 主に、世界の上場株式の中から、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式*を実質的な投資対象とします。 * 預託証券を含みます。

- イノベーションの普及度合いや市場での評価は時間と共に変化することから、投資対象とするイノベーションは固定せず、随時見直しを行いません。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として、為替ヘッジは行いません。

2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。

- イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)からの助言をもとに、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクが当ファンドの主な投資対象であるルクセンブルグ籍円建外国投資法人「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」の運用を行いません。

3 年1回、決算を行いません。

- 毎年5月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

- 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項①

●リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

(次ページに続く)



お申込みに際しての留意事項②

(前ページから続く)

リスク情報(続き)

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。



お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式	
購入単位	(分配金受取コース)	1万口以上1口単位、1万円以上1円単位
	(分配金再投資コース)	1万円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額	
信託期間	2029年5月21日まで(2019年6月28日設定)	
決算日	毎年5月20日(休業日の場合は翌営業日)	
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはルクセンブルグの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。	
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して8営業日目からお支払いします。	

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料は購入金額に応じて、以下の手数料率を購入価額に乗じた額になります。	
	5,000万円未満	3.3%(税抜3.0%)
	5,000万円以上1億円未満	1.65%(税抜1.5%)
	1億円以上	0.55%(税抜0.5%)
	※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。	
換金手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.658%(税抜1.58%)程度が実質的な信託報酬となります。 信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.858%(税抜0.78%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.8%程度となります。	
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。	
	※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。	
	※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。	



委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
[ホームページ] www.nikkoam.com/
[コールセンター] 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

受託会社 三井住友信託銀行株式会社

販売会社 商号等: みずほ証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会